上海中医薬大学簡介

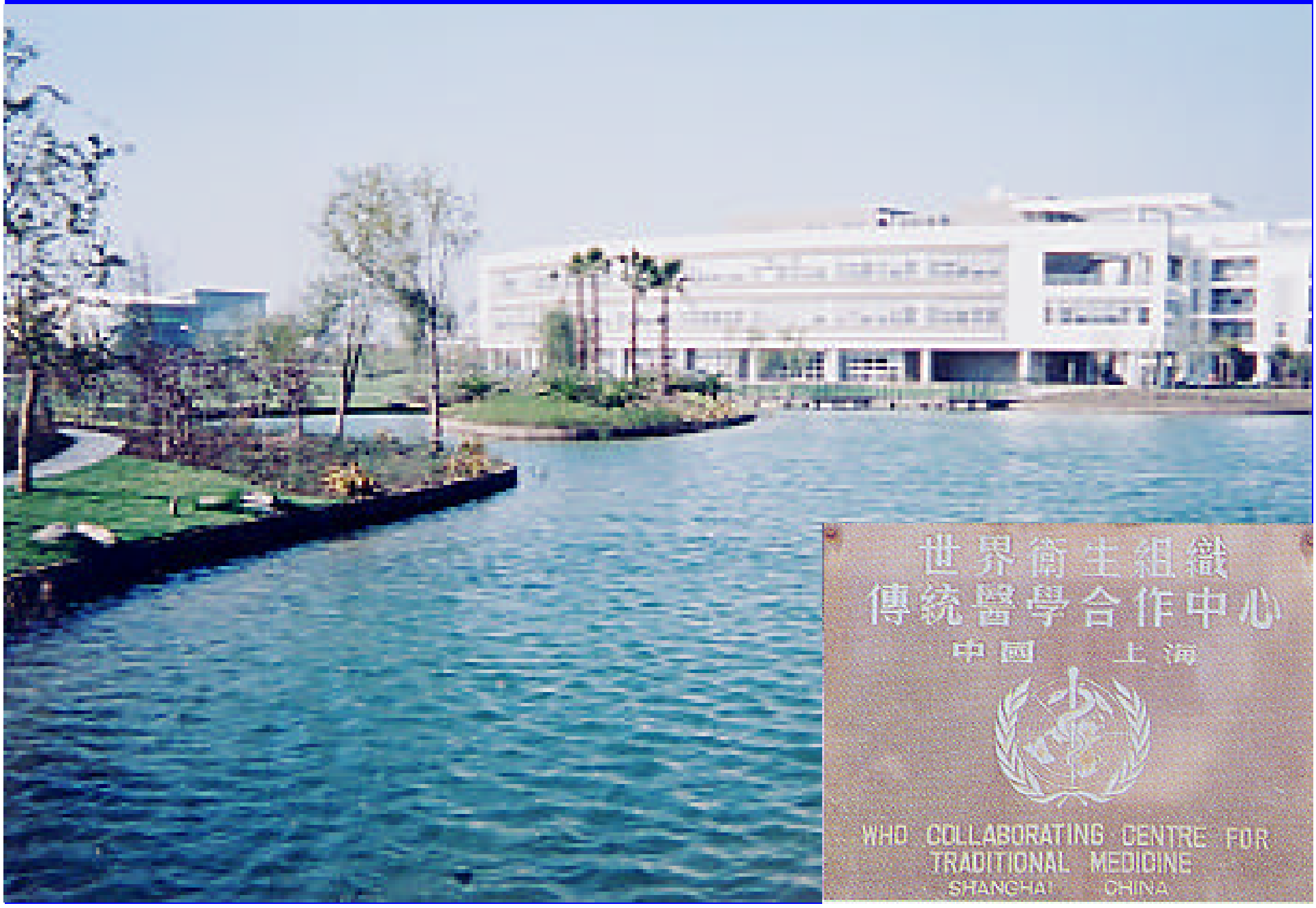
1956年　成立　当時上海中医学院
1993年　改名　上海中医薬大学
2003年　移転　上海浦東高科技園区

上海中医薬大学新校舎　　2003年 11月移入

教学棟正面に向かって右棟

上海中医薬大学　情報センター

国際教育学院


世界衛生組織
傳統醫學合作中心
中國 上海
WHO COLLABORATING CENTRE FOR
TRADITIONAL MEDICINE
SHANGHAI CHINA

医学史博物館のロビー

医学史博物館内

文物実物 14000

上海中医薬大学附属日本校

日本語版中医教材

日本語版の中国全国統一教材　全10冊　全2712頁

日本語版のビデオとDVD教材

中医基礎理論 4巻　中医診断学 4巻　鍼灸学 4巻　中国鍼灸手技1巻
推拿学1巻　中薬学1巻　方剤学1巻　中医舌診1間　中医内科3巻

日本語版の学生訓練報告課題

中国医学史2冊　中医基礎理論4冊　中医診断学4冊　中薬学2冊　方剤学2冊
中医産婦人科2冊　中医小児科3冊　推拿学2冊　鍼灸学4冊

中国医学と西洋医学の共通点
中国医学の研究の特殊性

演　者：上海中医薬大学　教　授
孫　樹建　　医学博士

第一部分

概念に再認識

中医の概念の変更

中医の原始概念 ＝ 和　医

<<漢書 ·芸文志>>の記載 :致中和、中庸之道。

医学の最高境地である。

具体内容 :寒者熱之、熱者寒之、実者写之

虚写補之、疾者徐之、徐者疾之

労者逸之、逸者労之、昇者降之

******

中医の現在概念 ＝　中国伝統医学（T.C.M.）

1936年国民政府<<中医管理条例>>

科学＝正確？

- 科学の真正な意義は何ですか？
- 東方では科学があるかどうか？
- 中医、鍼灸は科学的なものであるか？
- 鍼灸の科学と科学の鍼灸の区別は？

卵の産量の増加からの啓発

- 人類は自然現象を解釈するため永遠に苦悩している
- 人類はいつも認識上の錯誤を訂正しながら進歩している
- 人類は自然界の既存物の模造しかできない
- 人類は生命体の製造ができない

生理現象に関する幾つかの謎

1) 全身の血液循環を推動するエネルギーは？

2) 重力を抵抗して内臓の位置を維持する力は？

3) 人体の生命活動を維持する真正な栄養素は？

4) ？

5) ？

第二部分

中医と西医の現状分析

中医と西医の統合に影響する因素

1) 中医と西医の対立、水火不融
（韓国）
2) 西医の診断、中薬と鍼灸で治療
（日本）
3) 西医の理論で中医の機序を解説
（多国）

群盲撫象

中医、西医の比較と補助

1) 生命現象を観察する重点が不同

中医は整体、生命現象の機能表現に重視

西医は局部、生命体の機能構造に重視

2) 医学領域での発展が不同

中医は治療方法の研究、臨床効果の追求

西医は探究病因、臨床機序の解明

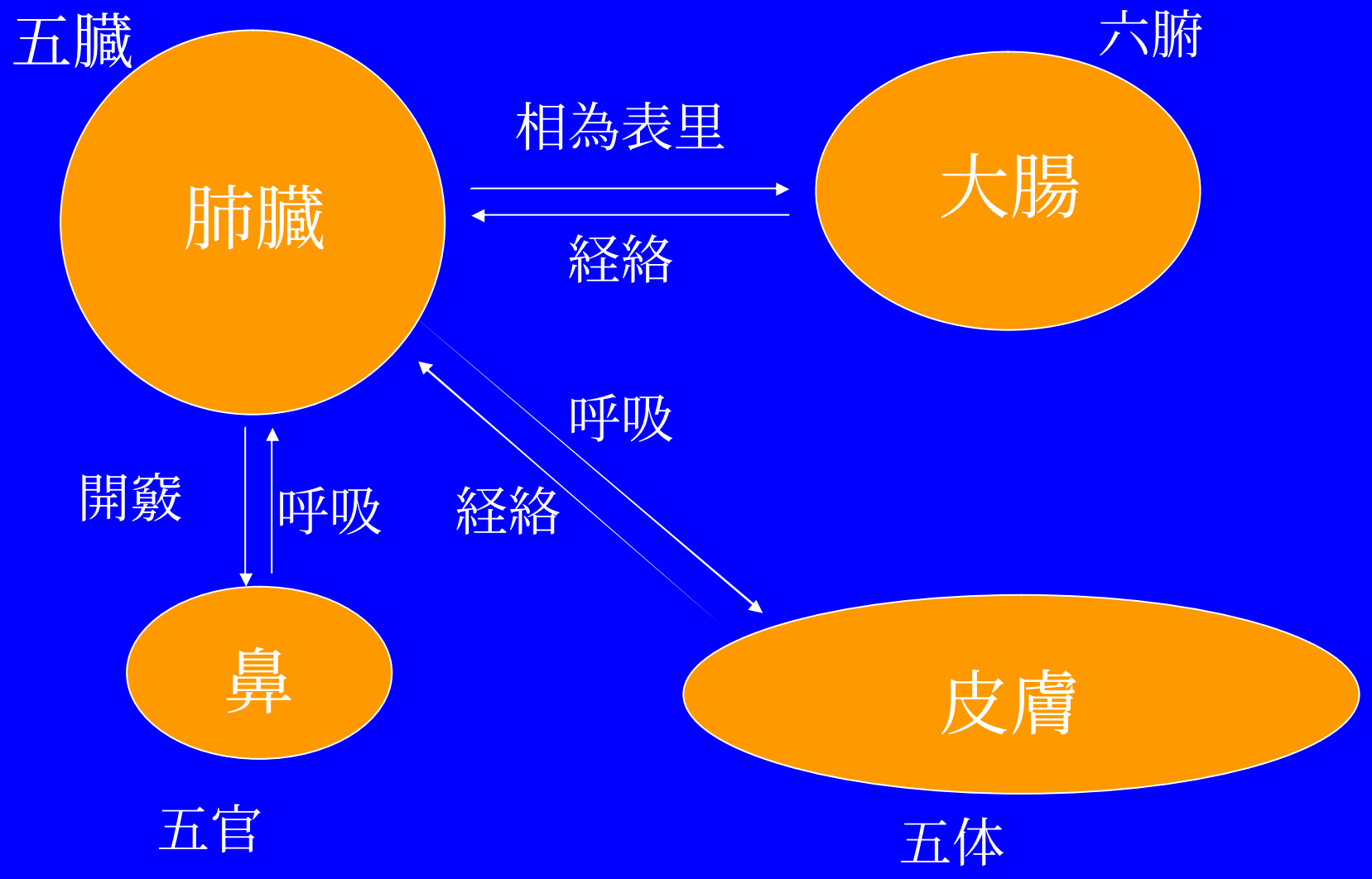
3) 存在する欠点が不同

中医の欠点 :既知の機能、未知の構造

西医の欠点 :既知の構造、未知の機能

中医学の臓像学説
肺、大腸、皮膚之間的関係

意味がない重複研究
を避けるべき



現代自然科学と中医、西医の関係

- 自然科学と西洋医学の関係
  1) 自然科学の知識で医学領域の現象を解説
  2) 自然科学の成果で医学を武装する
- 自然科学と中国医学の関係？
  1)陰陽五行を代わり、自然科学の知識で中医の理論を解説するべき
  2)四診を代わり、自然科学の成果で中医学を武装するべき

第三部分

中医学研究の特殊性

中医研究の目的

- 西洋医学の弱い領域に中医で充実
- 現在の中医治療方法に篩い分け
- 共通語を探し出し、中西医学の有機的な結合で、臨床効果を高め
- 現代自然科学の可能の領域で中医のメカニズムを解明

中医学の研究の分類

- 文献の研究 :古代文献に対する再研究、その内容を伝承或いは放棄
- 臨床の研究 :生薬或いは処方の臨床有効性の証明、又は新しい臨床適応症の再発見
- 実験の研究 :生薬の単一の標的な臨床有効成分の証明、又は可能の領域でメカニズムを解明

現在、研究が不可能のテーマ

- 陰陽の具体的な概念？
- 経絡の解剖構造と固定な路線？
- 穴位の解剖構造と深度？
- 気の物質性と単一性？
- 中医処方の真正な有効成分と標的？

中薬と方剤の研究の不同

中薬研究：

　単一の標的な成分を分離が可能、有効成分の確認ができる

方剤研究：

　単一の標的な成分ではない、真正な有効成分の確認はできない。

　最も適切な臨床適応症の篩い分けるのは方剤研究の主な目的です。

病名での共通語

例え：

痿症（筋無力症）

？症、歴節（リウマチ）

消渇（糖尿病）

乳余疾（産後病）

目黄（鳥目）

生理機能での共通語

例え :気の作用：

1)推動作用（血流の動力）
2)温煦作用（体温を維持するエネルギー）
3)防衛作用（免疫力）
4)固摂作用（平滑筋の収縮力）
5)気化作用（食物から栄養素に転化）

病理での共通語

例え：

- ? 血 梗塞、血栓、内出血）
- 血? 血液粘性が高い、血流速度が遅い
- 等
- 等
- 等

治療での共通語

活血　血流を加速させ、又は血液の粘性を降下させる）

化?　血栓を融解させ、又は内出血を再吸収させる）

日本の漢方研究に対する異なる意見

- 漢方」の名称を再検討する必要？
- <<傷寒論>>等の文献に対する再研究？
- 古代の処方の臨床適応症の再確認？
- 古代処方に対する臨床弁証加減を再検討？
- 生薬の薬理と処方のメカニズムを混同せず

謝　謝！